

トータルケアNEWS

No.69 2020. 6. 30

発行 社会福祉法人 秋田県社会福祉協議会
〒010-0922 秋田市旭北栄町 1-5
TEL 018-864-2714 FAX 018-864-2742
URL <http://www.akitakenshakyō.or.jp/>
E-mail chiiki@akitakenshakyō.or.jp

CONTENTS

「地域支え合いの仕組みづくりモデル事業」の取組み

- ・秋田市 仁井田
- ・湯沢市 ①岩崎・須川、②小安
- ・潟上市 ①上曲・下曲町、②追分西、③羽立二
- ・仙北市 角館・田沢湖・西木
- ・八峰町 岩館第二

「地域支え合いの仕組みづくりモデル事業」の報告 ～モデル指定社協の取組み～

本会では、「赤い羽根共同募金」の助成金を活用し、町内会や自治会、集落等の小地域において、地域の課題解決に向けて住民が主体的に取り組むための仕組みづくりを進める「地域支え合いの仕組みづくりモデル事業」を実施しています。

今年度は、新規モデル地区として湯沢市社会福祉協議会（稲川地区）を指定しているほか、継続モデル地区として大仙市社会福祉協議会（大曲地区）と八郎潟町社会福祉協議会（浦大町地区等）を指定しています。

大仙市では、大曲市中心部で2か所のサロンをスタートさせ、参加者の介護予防や生きがいづくりを進めているほか、地域のネットワーク形成率を上げるため対象世帯の掘り起こしなどに取り組んでいます。

八郎潟町では、町内3地区（町中心地区・山間部地区・住宅地区）ごとに地域福祉座談会を開催し、自分たちが住む地域の現状と課題について話し合う機会をつくり、生活課題の掘り起こしと支援の仕組みづくりなどに取り組んでいます。

各モデル地域の取組みは、指定終了後に改めて紹介しますが、今号では、平成28年度から令和元年度にかけてモデル地域に指定した社会福祉協議会の取組みの概要を紹介します。

指定年度	指定社協（地区）		
H28～H29	潟上市（上曲・下曲町）	湯沢市（岩崎・須川）	八峰町（岩館第二）
H29～H30	潟上市（追分西）	仙北市（角館・田沢湖・西木）	
H30～R1	秋田市（仁井田）	潟上市（羽立二）	湯沢市（小安）

◆秋田市社会福祉協議会

仁井田地区社会福祉協議会の取組み

(平成30～令和元年度指定)

□ 指定地区の概要

- ・世帯数：5,695戸（H30年度）
- ・高齢化率：28.9%（H30年度）

秋田市の南部に位置し、人口は約14,500人、仁井田小学校、御野場中学校の学区と52町内会からなる地区。古くからの住宅地で、昭和年代の居住者が一人暮らし等高齢者世帯として増加している一方、平成以降の居住者は子育て世代が多く、共働きやひとり親世帯が増加している。

□ 具体的な取組み

- ・仁井田地区社会福祉協議会にエアコン清掃チームを立ち上げ、「高齢者世帯生活支援健康増進事業プログラム」により、一人暮らし等高齢者世帯を対象にした定期的なエアコンの保守点検、フィルター清掃、アルコール消毒を行い、カビやハウスダストによる呼吸器疾患・感染症・肺炎の予防に努め、高齢者の健康的な生活を支援した。また、高齢者世帯を訪問することで、話し相手や相談相手となり、元看護師が血圧測定を行うなど、見守りや状況把握を兼ねている。



清掃・消毒チーム



清掃・消毒活動

□ 成果と課題

- ・高齢者はあまりエアコンを使わないため、清掃・消毒のニーズは少ないと思われたが、地域住民による支え合いの活動であることや衛生面での必要性が理解され、地元企業からも技術支援を受けるなど、地域の社会資源を巻き込んだ活動に発展している。
- ・当初は地区社協の役員だけでチームを組んだが、地域内のニーズが増加していることや、今後は冬期間の活動も視野に入れて地域住民から担い手を募集するなど、活動の継続・活性化に向けて地域一丸となった取組みが期待される。

◆湯沢市社会福祉協議会

①岩崎（松浦町内会）・須川地区の取組み

（平成28～29年度指定）

□ 指定地区の概要

【 岩崎地区（松浦町内会） 】

- ・世帯数：31戸（H30.3.31現在）
- ・高齢化率：45%（H30.3.31現在）

市営団地があり、他地域からの転入世帯が多く、岩崎地区の中でも比較的住民同士の交流が少ない地域。

【 須川地区 】

- ・世帯数：313戸（H30.3.31現在）
- ・高齢化率：38.8%（H30.3.31現在）

地域の高齢化が進み、バス路線の廃止による買い物や通院、除排雪などの問題を抱えている町内会。

□ 具体的な取組み

【 岩崎地区（松浦町内会） 】

- ・地域における支え合い活動について、懇談会を開催して先進地の取組み（DVD鑑賞）を学び、町内の福祉課題を出し合い、自分たちに何ができるかを考えた。
- ・大規模災害を想定した町内避難訓練を実施し、危険個所の確認や炊き出しによる交流を図った。



学習会

- ・出張型のいきいきサロンやウォーキング、軽運動などの介護予防を目的としたプログラムを盛り込み、住民同士が交流する機会づくりに努めた。

【 須川地区 】

- ・近隣スーパーに依頼して買い物支援バスツアーを実施した。
- ・地域の諸課題に対応するため、住民主体の共助組織「須川権現（ごんげん）共助隊」を立ち上げ、地域の23名（60～70代）の登録を得て、住民の依頼により雪下ろし作業を行った。



共助隊設立総会



共助隊による活動

□ 成果と課題

【 岩崎地区（松浦町内会） 】

- ・ 支え合いの必要性は感じつつも進め方がわからず、交流機会も少なかったが、避難訓練やサロンを通じて定期的な交流が生まれ、住民主体の見守りや助け合い活動の必要性が理解された。
- ・ 参加者が固定化され、男性参加者が少ないことから、参加を増やすための工夫が求められる。

【 須川地区 】

- ・ 経済的な理由で雪下ろし業者に依頼することが困難な世帯の不安を解消し、住民主体による助け合い活動を進めていくための基盤整備につながった。
- ・ 草刈りや通院、買い物支援などのニーズにも対応できるよう、共助隊の体制づくりが期待される。

②小安地区の取組み（平成30～令和元年度指定）

□ 指定地区の概要

- ・ 世帯数：62戸（R2. 5月現在）
 - ・ 高齢化率：46.8%（R2. 5月現在）
- 市内でも特に少子高齢化が加速している地域で、福祉部会での話し合いや中学生以上の住民アンケート調査を行い、雪下ろしや買い物、通院など地域のニーズ把握に努めてきた。

□ 具体的な取組み

- ・ 地域の雪問題やちょっとした困りごとに対応するため、住民主体の支援共助組織「雪下ろし支援隊（8名）」と「軽易作業支援会（10名）」を立ち上げ、雪下ろしや網戸、障子の修復作業を行った。
- ・ 地域の床屋を会場にした週1回のお気軽サロンの継続や、地域の子どもに昔遊びを伝承し交流する「オヤシ会」の立ち上げなど、住民が集い・交流できる場づくりに努めた。



座談会での話し合い

□ 成果と課題

- ・ 当初は雪下ろしへの対応だったが、地域の課題を話し合う中で自分たちに何ができるかを考え、資格等を生かした軽易作業への支援を加えるなど、住民同士の助け合いの仕組みづくりにつながった。
- ・ 雪下ろし支援隊により一人暮らし高齢者等の不安解消につながったが、隊員の平均年齢が70代と高齢のため、支援共助組織の活性化に向けて若い世代の参画を働きかけていくことが求められる。

◆ 潟上市社会福祉協議会

① 上曲・下曲町町内会の取組み (平成28～29年度指定)

□ 指定地区の概要

- ・世帯数：204戸（H29年度）
- ・高齢化率：44.7%（H29年度）
天王地区にあり、上曲・下曲町の町内会が合同でサロン活動を行うなど、積極的に地域福祉活動を進めている。

□ 具体的な取組み

- ・地域の民生委員2名が介護予防ボランティア研修受講者でもあり、介護予防運動や健康体操をはじめとする多種多様なプログラムを企画・運営し、地域の生きがいづくりの場としてサロン活動の充実を図った。
- ・近隣の学童保育と連携し、小学生と世代間交流活動に取り組んだ。



色合わせパズルを作成



皆で「だまこ」づくり

□ 成果と課題

- ・定期的なサロン活動をベースに介護予防にも力を入れ、80代の方が多きものの皆元気に歩いて参加している。自主防災組織を通じた一人暮らし高齢者世帯の訪問や、世代間交流により子ども達と顔見知りになるなど、地域の見守りの体制づくりにつながっている。
- ・平成30年度に上曲・下曲町町内会が統合されるのに伴い、町内会に「福祉部会」を設置しており、「福祉部会」を中心とした積極的な取組みが期待される。

◆ 潟上市社会福祉協議会

② 追分西町内会の取組み

(平成29～30年度指定)

□ 指定地区の概要

- ・世帯数：215戸（H30年度）
- ・高齢化率：15.4%（H30年度）
共働きの若い世代や子どもが多い町内会で、親・子・孫世代による世代間交流やサークル活動が積極的に行われている。

□ 具体的な取組み

- ・カルチャーサークル（町内会の専門部として位置づけ）が主体となって毎月のサロン活動の内容を企画し、畑づくりから収穫、お菓子づくり、会食などを行い、子どもから高齢者が交流できる場づくりに取り組んだ。
- ・きりたんぽ会に高齢者を招待したり、地域の高齢者を講師に招いて調理実習を行うなど、世代間交流に取り組んだ。
- ・支え合いに関する個別アンケートを実施し、地域での困りごとや何が支援できるかを把握した。



サツマイモの植え付け



スイーツづくり

□ 成果と課題

- ・一人暮らし高齢者の見守りや声かけなどにより、新規の参加者が増え、サロン活動を通じて地域住民の交流が促進された。また、困りごとアンケートにより除雪や買い物の支援がニーズとして見込まれ、カルチャーサークルと連携した今後の支援活動が期待される。
- ・男性参加者の活動参加や一人暮らし高齢者への配食活動の実施に向け、声かけやニーズ把握を行うなど、町内会と連携した取組みが期待される。

◆ 潟上市社会福祉協議会

③ 羽立二自治会の取組み

(平成30～令和元年度指定)

□ 指定地区の概要

- ・世帯数：77戸（H30年度）
- ・高齢化率：44.3%（H30年度）
昔からの住民同士のつながりが強い町内会で、近隣自治会と自主防災組織をつくるなど自治会活動が活発に行われている。

□ 具体的な取組み

- ・町内福祉保健部が主体となってサロンを立ち上げ、毎月定期的を開催し、軽運動や脳トレなどの健康体操を中心に介護予防に取り組んだ。
- ・町内の福祉マップを作成し、一人暮らし高齢者や高齢者夫婦、障害者世帯など見守りが必要と思われる世帯状況の把握に努めた。
- ・一年目は一人暮らし高齢者世帯を訪問して困りごとや要望を聞き取り、二年目は福祉保健部と自治会とが協働で全戸訪問を行い、アンケート調査により生活課題の把握に努めた。



ビデオを見ながら運動



福祉マップづくり

□ 成果と課題

- ・サロンの開催が一年目は月1回、二年目は月2回に増え、サロン活動を通じて定期的な住民交流が促進された。また、マップづくりや生活課題の把握により、住民が地域の問題を「我が事」として捉え、自分たちに何ができるかを考える機会となり、支え合いの意識が高まった。
- ・把握した生活課題のうち、運転免許返納後の移動手段に不安を感じていることについて、買い物や通院支援の具体的な取組みの検討や、サロンへの男性及び若年世代の参加促進を図るため、福祉保健部と自治会との連携した取組みが期待される。

◆八峰町社会福祉協議会

岩館第二自治会の取組み

(平成28～29年度指定)

□ 指定地区の概要

- ・世帯数：約180戸（H29年度）
- ・高齢化率：43%（H29年度）

老人クラブや婦人会活動が活発な地域だが、町営住宅に入居する高齢者のみ世帯やひとり親世帯など、地域との交流が薄く孤立しがちな方がいる。

□ 具体的な取組み

- ・毎月開催している「いさりびサロン」の活動を充実させ、介護予防やニュースポーツを取り入れた健康づくりのほか、老人クラブと町内会が連携し、育てた野菜の大きさを競い合う「野菜コンクール」や男性向けの料理教室「男子厨房に入ろう会」など、積極的に生きがいづくり活動に取り組んだ。



「男子厨房に入ろう会」の様子



野菜コンクールの表彰

- ・認知症サポーター養成や特殊詐欺防止研修、精神障害者の理解など、地域で見守り、支え合うのためのスキルアップを図った。

□ 成果と課題

- ・定期的なサロン活動を発展させ、地域の健康・生きがいづくりの拠点として新地域支援事業の「通所型サービスB」に移行し、男性向けや住民参加型プログラムの実施などで住民同士の交流が促進され結束力が強まった。
- ・働き盛りの若年層や精神疾患のある方、近隣との交流が少ない方などを巻き込むためのアプローチ方法について、老人クラブと町内会の連携による具体的な取組みが期待される。

◆仙北市社会福祉協議会

角館・田沢湖・西木地区の取組み (平成29～30年度指定)

□ 指定地区の概要

【角館 桜美町内会】

- ・世帯数：256戸 (R2. 4月現在)
- ・高齢化率：38.1% (R2. 4月現在)

角館町中央部に位置し、一人暮らし等高齢者世帯のほか若い世代も多く、つながりが少ないなどの問題を抱えている。

【田沢湖 先達地区】

- ・世帯数：16戸 (R2. 4月現在)
- ・高齢化率：49.2% (R2. 4月現在)

平成25年度の土石流災害により甚大な被害を受けた地域だが、災害を経験したことと住民同士の声かけ意識が高まっている。

【西木 小滝・吉田・相内地区】

- ・世帯数：90戸 (R2. 4月現在)
- ・高齢化率：50.3% (R2. 4月現在)

桧木内地区中央部に位置し、地域づくりに取り組むNPOが社会資源としてあり、連携した取組みが期待される地域。

□ 具体的な取組み

【角館 桜美町内会】

- ・町内会館の開放日に合わせて定期的にサロンを開催し、介護予防運動や健康体操などのほか多種多様なプログラムを企画し、生きがいつくりの場としてサロン活動の充実を図った。



武家屋敷ウォーキング

【田沢湖 先達地区】



健康体操

- ・旧保育園を改装した町内会館で定期的にサロンを開催し、認知症や介護予防をテーマにしたプログラムにより、健康・生きがいつくり活動の充実を図った。



こども園との交流

【西木 小滝・吉田・相内地区】

- ・「NPOかじか瀬」が所有する交流拠点で月1回サロンを開催し、介護予防のほか買い物ツアーや世代間交流を行うなど、NPOや地域のこども園と連携して活動の充実を図った。

□ 成果と課題

【 角館 桜美町内会 】

- ・サロンへの参加を世話人が呼びかけることで安否確認となり、参加した方は交流することで意欲の向上につながるなど、サロン活動を中心に町内の支え合い活動が活発化した。
- ・参加者していない方への働きかけや、生活課題の解決を視野に入れた取組みなど、地域で支え合うための風土づくりが期待される。

【 田沢湖 先達地区 】

- ・定期的に地域内で交流する機会ができ、住民同士のつながりが深まり、これまで地域行事に参加しない方の参加も得られた。
- ・男性参加者が少なく、冬期間に開催できていないことから、今後の開催に向けた取組みが期待される。

【 西木 小滝・吉田・相内地区 】

- ・NPOと連携することで参加者が増え、参加者同士で送迎するなど自然に支え合う関係が生まれた。
- ・参加者が固定化しつつあり、男性参加者も少ないことから、今後の継続に向けて取組みが期待される。

※ 3地区の共通課題として参加者の固定化が挙げられていることから、各地域の世話人や社協担当者等が意見交換・情報共有し、今後の実践に活かしていく必要がある。